

別紙3(第7条関係)

会議結果のお知らせ

令和5年度第1回宮古市地域経済活性化連携会議を、次のとおり開催しました。

令和5年10月3日

宮古市地域経済活性化連携会議

- 1 開催日時  
令和5年7月28日(金)午前10時30分から午後0時まで
- 2 開催場所  
宮古市市民交流センター 1階 会議室1・2
- 3 議題  
(1) 令和5年度産業関連の事業計画について  
(2) 地域経済の動向について  
(3) その他
- 4 会議の概要  
松田淳議長から挨拶、その後、議題について説明のうえ、意見交換をした。  
詳細は、別添議事録のとおり。
- 5 問い合わせ先  
宮古市産業振興部産業支援センター  
電話0193-62-2111(代表) 内線2611 0193-68-9092(直通)

令和5年度第1回宮古市地域経済活性化連携会議 議事録

1. 日 時 令和5年7月28日（金）午前10時30分から午後0時まで
2. 場 所 市民交流センター 1階 会議室1・2
3. 出席委員 17名  
松田淳、花坂康太郎、植野歩未、米澤司、中居克広、佐藤功、鈴木良太、岩田智、林孝彦、渡部玲子、石原和幸、早川輝、菊地丙午、藤田ルリ子、小西英理子、盛岩幸恵、伊藤峻
4. 事務局等出席者 8名  
産業振興部長 岩間 健  
産業振興部次長  
兼企業立地港湾課長 小成 勝則  
産業支援センター所長 飛澤 寛一  
産業支援係長 皆野川 徹  
商業労政係長 工藤 翠  
観光課長 山崎 義剛  
農林課長 袈岩 邦行  
水産課長 田代 英輝
5. 傍 聴 者 なし
6. 議 題 (1) 令和5年度産業関連の事業計画について  
(2) 地域経済の動向について  
(3) その他
7. 議事録（要旨）  
(1) 令和5年度産業関連の事業計画について

主な意見及び質疑事項

令和5年度宮古市当初予算（案）資料（資料No. 1）、施策に関する取組概要（資料No. 2）について説明後、質問・意見を募った。

①「うみだす」

情報提供  
意見・質疑  
（委員）

「メイドイン宮古」ブランド創出プロジェクトのGAP認証とはどういうものか。

回答

（事務局）

グローバルギャップといい、世界的な表示に基づいた認証機関が衛生面や生産状況を確認した上で認証される制度である。2名は、宮古市、岩泉町、田野畑村の生産者とともに、新岩手農業協同組合の指導の下、グローバルギャップを申請し、認証された。グローバルギャップ認証を受けていることをPRしながら、商品の価値を高めていきたい。

意見・質疑

（委員）

認証を受けたということは、輸出を視野に入れているのか。

## 回答

(事務局)

目標はそうである。衛生面等の認証機関がないため、受けることで商品が安心安全と  
いうことを証明できるので取り組んでいる。輸出については、今のところ数量的に県内  
流通のみを考えている。

## 意見・質疑

(委員)

干し椎茸について、地元の方が買わない要因として、種類や使い方が分からない、と  
いったことがある。そのため「うみだす」の後の「はぐくむ」、「うりこむ」についても  
重要視してほしい。

また、今年2月にいちごの販売をしたが、需要が高かった。4月、5月に生産量が上  
がったときにいちごを余してしまう事態が発生していると聞く。そこで、水産会社の冷  
凍技術と農業のマッチングをすればよいのではないかと思った。夏の時期に冷凍いちご  
が売れるのではないか。

そして、サーモンについて、自然ふ化のサーモンもできないものか。

## 回答

(事務局)

干し椎茸について、食べ方については以前、農家や婦人団体の集まりや協議会があっ  
た際に、紹介したものが残っているため、その際の資料の再版を検討したい。

冷凍いちごについて、出荷の際には冷蔵を行って日持ちするように工夫をしているが、  
冷凍技術についても検討していきたい。

(事務局)

鮭の自然ふ化については、北海道では取組が行われており、国でも調査研究が行われ  
ていると聞いているので、注視していきたいと思っている。岩手県全体の取組としては、  
放流する鮭の稚魚の大きさについて、海洋環境に負けないように強靱な稚魚を育てる、  
というやり方で進めている。改良された餌の使用や早い時期の親を獲るなどの方法によ  
り、1.5グラムの稚魚を3グラムまで大きくして放流をしている。

## 意見・質疑

(委員)

産学官連携基盤強化プロジェクトについて、県立大学宮古短期大学部のオリエンテー  
ションはどのようなことを行っているのか。また、オリエンテーションについて、今後  
の課題はあるか。

## 回答

(委員)

先日、新1年生がゼミごとに分散して、沿岸地域の実態を見に行った。市外出身の学  
生の視点から宮古市がどのように見えるのか、意見を聞き、地域の発展に活かしてい  
ければいいと思う。

(委員)

短大設立当初は、教職員と沿岸自治体職員の交流会があった。大学は閉鎖的であるた  
め、今回の会議に出席する教職員以外は、地域の方との交流の機会がないため、交流会  
などを年一回でもできればと思っている。

(事務局)

短大協力会については、宮古市役所教育委員会総務課が事務局になっている。地域の  
産業人材を輩出できるよう、若い方達をはぐくむという意味で、よりよい事業ができる  
ように取り組んでいきたい。

## ②「うりこむ」

### 意見・質疑

(委員)

客船が寄港をしても、盛岡市に人が行ってしまうのではないか。寄港を促進するのであれば、宮古市でどのように受け入れるのか考えていかなければいけない。

### 回答

(事務局)

寄港した際、乗客全員ではなく、一部が盛岡に行き、また、1日中行くわけではない。分散させなければ、宮古市のみでは受け入れきれないため、県内各地で受け入れていただきながら、県内全体で経済効果があればいいと思っている。

ベリッシマについては、客船の滞在時間が長いので、岸壁の方でも夜市のような仕掛けをする予定である。客船を見に来るお客さんも相手にして売り込みをしていきたい。

## ③「はぐくむ」

### 意見・質疑

(委員)

今年の3月に卒業した宮古短期大学部の学生について、20ポイントほど県外流失が増えた。宮古で就職したいが、条件が合わないといったことも要因の1つである。近年、1年生は夏のインターンシップに参加し、3月に会社説明会や試験といったように就活の時期が早くなっている。宮古市の企業はそれに対応できていないと思うため、良い人材を確保したいのであれば、県内や全国的な就活の流れに合わせていければよいのではないか。

### 情報提供

(委員)

取材型インターンは1週間のプログラム。2、3日企業に入り取材に入り、残りの日数で記事を書く。現在7名のエントリーあり、うち2名が県内(内陸)、3名首都圏学生、残りに関西の学生。話を聞くと、地域創生に興味があるとのこと。

## ④「そなえる」

質問等なし。

## (2) 地域経済の動向について

### 主な意見及び質疑事項

#### 意見・質疑

特になし

## (3) その他

### 主な意見及び質疑事項

#### 意見・質疑

(委員)

現状報告として、宮古市内の賃金の低さについては、コスト高が要因としてある。先月、従業員を解雇せざるをえなくなった。メインの顧客が高齢者であり、食費光熱費に回り、年金が余らず、旅行したくてもできず、そのため、新しい服や靴を買う機会がなくなり、売り上げが下がるということを鑑みると従業員を解雇せざるをえない悪循環になっている。

質問として、宮古駅前の旧キャトルについて、今後の流れはどのようになるのか。

**回答**

(事務局)

旧キャトルは宮古の中心の施設であった。現在、中心市街地を含めた、立地適正化計画をベースに、国等からも財源を確保しながら、今後の計画を今年度中に策定する予定。具体的な取り組みについては、まだ申し上げられる段階にないが、これから都市整備部中心に取り組んでいくというのが正直なところである。

**情報提供**

(委員)

大手の製造業の発注先という形で仕事している会社が多いと思うが、「輸出先が今後どうなるか」という問題がある。ここ20年くらい、デジタル機器は中国のマーケットが拡大を推進してきた。先進国は沈み、中国は進展している。現在、東南アジアやインドにも広がってきている。中国は、作る技術のみならず、売る、消費する、とトータルで世界一。ただし現在、中国は、地方の金融機関、地方政府も経済が回っておらず、一般消費者が激減しているようだ。一例でいうと、スマートフォンは給料や仕事の激減で、生産数が落ちており、デジタル系の行き詰まりが中国を中心に起こっている。日本国内にもその影響を受けている会社があるというのが現状。今後、産業機械（ラインを作る、工場を作る等）まで影響が出てくると考える。

午後0時、閉会した。